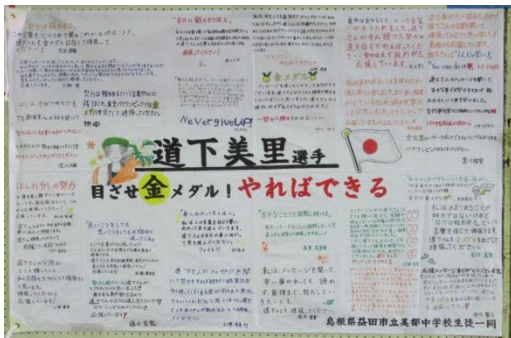


令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

道府県・政令市名【島根県】

学校名【益田市立美都中学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	全校生徒27名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ③その他 (パラリンピアン応援プロジェクト)
4 目 標 (ねらい)	○ブラインドマラソンを理解し、共生社会の構築に向け、自分たちにできることを考え実践する態度を養う。 ○パラアスリートとの交流を通して、自分の生き方を考えたり将来の在り方につないだりする。
5 取組内容	7月 道下美里選手 (ブラインドランナー) に手紙を送る。 ・ マラソン大会で一緒に走った教員の思い ・ 図書「パラリンピックのアスリートたち 可能性は無限大」を読んだ陸上部の生徒たちの思い 8月 道下美里さんから動画メッセージが届く。 9月 動画メッセージに込められた道下選手の思いや願いを受け止めた3年生のリーダーたちが道下さんを応援しようと動き出す。  ★応援プロジェクト①「道下さんを知ろう」(10月13日) ブラインドマラソンについて全校生徒に説明し、動画メッセージを全校生徒で視聴した後、道下さんへの応援メッセージを考える。    ★応援プロジェクト②「応援旗を作ろう」(10月15日) 自分たちが考えた応援メッセージを応援旗にする。  

★応援プロジェクト③「応援旗を送ろう」（１０月２３日）
手作り応援旗を送る「動画メッセージ」を作る。



１２月 道下さんが自身のもつ世界記録を更新し、防府読売マラソンで優勝したとの報道に、喜びを伝える写真を送ると、「応援旗を持っていったよ」と返信がくる。



６ 主な成果

○リオデジャネイロパラリンピック女子マラソン銀メダリスト道下美里さんからのビデオレターで、生徒たちはアスリートとしての高い意識や常に明るく周囲を勇気づける人間的な魅力も知ることができ、その姿に勇気や元気をもらったという生徒が多くいた。
○３年生を中心に率先してプロジェクトを進めることで、コロナ禍でも自分たちにできることがたくさんあることに気づき、活動を通して主体性が身についた。道下さんとの交流を通して東京大会への機運醸成を図ることができた。

７実践において工夫した点（事業の特色）

○コロナ禍の中、パラアスリートなど講師の招聘は難しいが、いただいた縁を大切にし、ビデオレターや手紙、メールなどのやりとりで交流を続けることができた。

８主な課題等

○パラアスリートは、大会や遠征、練習などのスケジュールがあるので、選手の所属先の担当スタッフとの連絡・調整が大切である。

９来年度以降の実施予定

○中心となって活動した３年生の思いを下級生につなぎ、これからも全校で応援していく。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

道府県・政令市名【島根県】

学校名【益田市立美都中学校】

1 実践テーマ	I・II・ III ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	全校生徒27名（2年生 7名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ①教科名（総合的な学習の時間 2年「ユニバーサルデザインのつも（都茂）づくり」） ②行事名（パラアスリート講演会）
4 目 標 （ねらい）	○パラリンピアンの方の生き方や考え方にふれ、これからの自分自身の生き方を考えるきっかけとするとともに、共生社会促進に向けた意識の高揚を図る。 ○共生社会に向けたふりさとの現状を見つめ、ふりさとの良さに気づくとともに、すべての人がよりよく生きることのできるふりさとにしていくなために、自分たちにできることを考える。
5 取組内容	○パラアスリートから学ぶ（11月2日） ★小池岳太氏講演「自分の可能性を信じて」 ・パラリンピック競技（パラ自転車・パラアルペンスキー）についての話を聞いたり体験したりして、パラリンピックの理念や価値を学んだ。 ・講演内容や体験活動を通して、相手に対する配慮や日常生活におけるユニバーサルデザインに気づき、共生社会に向けて何が必要なのかを考えた。   

	○総合的な学習の時間（２年） 福祉に関する学習 【益田市美都地域包括支援センター 益田市社会福祉協議会 島根県西部視聴覚障害情報センターの協力による】 ★認知症サポーター研修（６月２４日） 「認知症高齢者にやさしいまちづくり」 ★あいサポーター研修（７月８日） 「障がいを知り、共に生きる ～まず、知ることからはじめましょう～」 ★まちあるき（９月２４日） 車いす・高齢者疑似体験をし、校区の都茂の「まちあるき」をしながら、気づいたことをメモし、その「気づき」を付せんを使ってグループごとに整理しながら『つも福祉マップ』を作成した。
	 
6 主な成果	○パラアスリートの講演では、「誰でも無限の可能性を秘めている。何事も簡単にあきらめないでほしい」という講師のメッセージから、生徒たちは勇気をもって挑戦し続けることの大切さを学び、自分自身を見つめるきっかけにもなった。 ○２年生は認知症サポーター研修やあいサポート研修に加え、パラアスリートの話を聞いたことが、実際に自分たちの住む町を見直す視点となり、共生社会の実現に向けて自分たちができることは何かを考える原動力となった。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	○コロナ禍でもやり方を工夫し、できるだけ「本物の力」「実感」が味わえるように、体験や講演などを実施した。 ○小池岳太さんに講演後、生徒の感想や質問等を送ると、全員に返事をもらったり、２年生が作成したマップは益田市福祉マップづくりに生かされたりするなど生徒は手ごたえを感じていた。
8 主な課題等	○多くの地域の方々に、意見を聞いたり学びを発信したりしたかったが、コロナの関係で地域の行事が中止になり、場の設定は難しかった。
9 来年度以降の実施予定	○来年度７月に予定している東京への修学旅行を柱に、オリンピック・パラリンピックに向けて興味関心を高めるとともに、オリパラ教育で学んだことを自分たちの生活や未来につないでいく。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

道府県・政令市名【島根県】

学校名【益田市立美都中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	全校生徒27名（2年生 7名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ③その他（調べ学習「情報発信・情報収集」）
4 目 標 （ねらい）	○1年を通して継続して、オリンピック・パラリンピックに関する調べ学習に取り組むことで、オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高め、東京大会への機運を盛り上げる。
5 取組内容	○夏休みの課題 「応援するぞ パラリンピック！イチおし競技をみんなにアピール」 ・夏季22競技、冬季6競技から自分の「イチおし」競技を決め、調べ学習する。夏休みの課題としてレポートを作成し、文化祭等で展示発表した。 ○冬休みの課題 ①オリンピック・パラリンピックに関する最新情報を集める ・新聞、テレビ、インターネットなどから自分の興味ある最新情報を要約し、感想を付けて紹介ワークシートに取り組んだ。冬休み明け、教職員全員で分担して紹介された情報にコメントを付けて、掲示した。

	・紹介文に付けたタイトルには、「心を一つに頑張ろう」「どうなる!? 東京大会」「コロナ禍の開閉会式」「リサイクルの表彰台」「コロナ禍…選手たちの思い」などがあった。 ②今年度取り組んだことを「誰か」に発信する ・これまでの取組をまとめたファイルを家に持ち帰り、それを使ってこれまでの活動や学んだことを誰か（保護者、親戚、近所の人）に伝える活動をした。伝えた相手からもらったコメントは冬休み明けにカードに清書して掲示板に貼った。  ・コメントには、「パラリンピックのことを娘から教えてもらい、これを機に注目したいと思った。」「一つの競技を調べることからパラリンピックへの理解を深めていってよいと思う。地域の人たちにももっと発信してほしい。」「推進校としていろいろなことを調べ、さまざまな活動や取組を通して深い関心をもてたのでは。」「何よりパラリンピアンとの交流やめったにない体験で、子どもたちの心に響いたと思う。」「ますます東京大会が楽しみになった。」などがあった。
6 主な成果	○一人一競技を担当することで、これまでに購入したオリパラ関連の図書資料を有効活用し、ルールや歴史、注目選手などしっかり調べることができた。 ○学びや気づきを他者に発信することを通して、自分の考えが深まったり広がったりした。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	○これまでの取組を振り返ることができるよう、オリパラ教育用のファイルを用意し、活動の感想やワークシート、集めたパンフレットなど、オリパラに関連するものは綴じておいた。 ○コロナの影響で、保護者や地域の方々を集める場が少なくなったので、無理なくできる情報収集・情報発信の仕方を模索した。
8 主な課題等	○「イチおし」の競技を調べる過程で、その競技への関心は高まったが、その後、その興味関心を継続させることが必要である。
9 来年度以降の実施予定	○生徒と保護者・地域住民が一体となって東京大会への関心や共生社会への理解を深められるよう実践を続けていく。